

## 『C型肝炎ウイルス駆除後（SVR 後）の肝細胞がん発生予測』

肝臓川柳



『癌リスク 糖鎖の値が 上がるとき』

（上がるとき・・・とき・・・とうさ・・・糖鎖…）

.....ノノノノノ

C型肝炎ウイルスに対する新しい経口治療薬の登場により、C型肝炎ウイルスの駆除はきわめて高い確率で可能となりましたが、これで終わりではありません。

たとえウイルスが駆除されても発癌の問題があります。

これまでのインターフェロンベースの治療によるウイルス駆除後にも発癌はみられましたが、発生率は低く5年後で1~2%以下で特に高齢、男性、肝線維化が強い例で多いとされていました。

高齢者が多い経口剤のみによるウイルス駆除後のC型肝炎からの発癌はかなり多いのではと予想されています（一説には5年で10%くらい）。

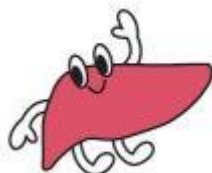
C型肝炎ウイルス駆除後の発がんのリスク予想に糖鎖のM2BPGi測定が有用とされています。ウイルス駆除後M2BPGiは下がるのですが、駆除後もカットオフ値2を切らないと発がん率が高く、治療後M2BPGi値の推移は、きわめて有用な指標であるとされています。M2BPGiには肝線維化予想と発癌リスク予想の両方の意義があるようです。

(M2BPGiの平均値) : 肝線維化 F0/1 : 1.3

F2 : 2.2

F3 : 3.3

F4 : 5.2



これだけ覚えておけば損はない!

今回のポイント

1型C型肝炎に適応を持つハーボニーがついに発売されました。

ウイルス駆除率は適応条件を満たせば、ほぼ100%とされています。

禁忌薬があったり、心電図チェック、腎障害の方で使えない方もいるなど

高度な判断が必要なので肝専門医へ依頼するようにしましょう。

(文: 福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)